

「地域の力を学校へ」推進事業の実践例（平成24年度実施分）



テーマ

Theme

学校名

School

講師等

Lecturer

実施日

Date

教科等

Subject

草津市ではたらく人々～工場の仕事～

草津市立山田小学校(3年生)

パナソニック株式会社アプライアンス社

平成24年10月19日

社会

授業 Class

始めに工場の概要を事前学習しました。工場の敷地面積は本小学校の23個分。従業員数は4900人。1日に3000台の冷蔵庫を製造しています。1台に必要な600個の部品のうち500個が人の手により装着されます。消エネ技術の一つ、「真空断熱材」の導入により、電気使用量は10年前の1/4に減ったそうです。

工場では環境に配慮した取り組み等を見学しました。人のいる場所にだけ冷暖房が当たるゾウの鼻のような空調機や、650個の天窗、仕事内容を判別するため従業員がかぶる7色の帽子等を目にしました。

児童らはベルトコンベアで運ばれてくる冷蔵庫の種類がバラバラなことに驚いた様子でした。販売状況に応じて30～40種を「ミックス生産」しています。扉の数や大小も異なるのに、1台の冷蔵庫に取り付ける全ての扉を同時に製造できるのは、最初に取り付けるバーコードによって正確にシステム管理されているからだそうです。



感想 Impression

児童より Impression from Children

- 従業員さんに体操の時間があつて面白いなあと思いました。
- (完成した冷蔵庫を包装するための)段ボールが上からドーンと落ちてきて、びっくりしました。
- 働いている人は、色の違う帽子をかぶったり、安全靴で足を守ったり、秘密がいっぱいでした。
- 働いていて気をつけることを聞いたら、「一台も悪いもの(不良品)を作らないこと」とおっしゃって、すごいなあと思いました。
- 原料になる鉄鉱石や鋼板がインドやオーストラリア、ブラジルから運ばれていることがわかりました。
- 一番難しいことを聞いたら、「目に見えないもの、まだ世の中にないものを形にする設計の仕事」とおっしゃっているのを聞いて、設計のお仕事をしてみたいなあと思いました。

学校より Impression from school

社会科の副読本「わたしたちの草津」に載っているパナソニックの冷蔵庫工場を見学することができ、学校での学習をさらに深めることができました。冷蔵庫ができるまでの過程や、働く人に視点をのせた学習をすることを事前の打合せで伝えておいたこともあり、丁寧な解説で大変わかりやすかったです。

普段目にすることができないものばかりで、児童たちの興味関心が高く、有意義な学習でした。

講師より Impression from lecturer

事前に先生方に当社までお越しいただき、学習内容や時間配分などについて打ち合わせしました。当日、児童たちが熱心に話を聞き、工場見学では、働く人や冷蔵庫ができる様子を目を皿のようにして見学する姿を見て、事前の打ち合わせで先生方が子どもたちへの興味を引き出し、より学習効果を高めることができたと感じました。